

校内研修計画

山梨市立山梨小学校

1 学校課題

本校の児童の学力を見てみると、全国学力学習状況調査や県学力把握調査の結果から十分といえず、身につけるべき基礎・基本の力が定着されていない状況にある。さらに「家庭学習時間」については平日、休日ともに、全国及び県と比べて少ない状況にあることが分かった。これらの課題から見えてくるものは、基礎・基本の徹底をはじめとする確かな学力の定着を目指した日常的な取り組み、授業改善の工夫の必要性である。そこで、山梨県教育委員会で取り組みを進めている「やまなしスタンダード」の視点をもとに授業づくりを実践してきた。教職員間でも日々の授業を見つめ直すなど授業への意識が高まってきている。しかし、課題点も多くさらなる定着を目指す必要がある。

2 研究主題

確かな学力の定着・向上を目指した指導の工夫
～基礎学力の確実な定着を図るための指導のあり方～

3 主題設定の理由

本校では、これまでに児童の実態を元に課題と考えられる「表現力」「対話力」に焦点を当て研究を進めてきた。生活面では、日常生活において、全校として統一した考え方で、よりよい基本的な生活習慣の定着に取り組んできた。その成果として挨拶・返事・話す態度・聞く態度などにその成果が現れていて、その影響が学習に取り組む姿勢に良い方向がでてきている。学習面では、よりよい学習環境を整えるための手だてとして、学習の決まりや発表の決まりを校内学力向上委員会において策定した。決まりにある学習に取り組む姿勢を、全職員で確認し、子供たちに提示し、指導をしてきた。その結果、学習の決まりや発表の決まりが定着してきた。

平成26年度から山梨市学力向上推進委員会の考えを元に、本校の算数科の課題である筋道を立てて考える力、記述して説明する力、判断する力を身につけるための手だてとして活用学習に取り組んできた。各学年で活用学習を実施した授業を行ったことで、児童の考える姿やすすんで学習する姿が日常的に見られるようになり、子供同士の学び合いの場に変容があらわれてきた。

さらに確かな学力を支える手だてとして学級力向上の取り組みも研究してきた。よりよい学級にしようとして児童が自分たちで考え取り組むことで、学級をよりよい方向に向けることができた。学習環境が整えられてきたことで安心して授業中に友達と考えを交流することができた。児童間の交流は活用学習の場でも生かされ、よく考える姿勢が学力向上につながっていると考えられる。

しかし身につけるべき基礎・基本の力が定着されていないこと、家庭学習の習慣化にも課題が残るといふ課題から見えてくるものは、基礎・基本の徹底をはじめとする確かな学力の定着を目指した日常的な取り組み、授業改善の工夫の必要性である。そこで、山梨県教育委員会で取り組みを進めている「やまなしスタンダード」の視点をもとに授業づくりを実践してきた。教職員間でも日々の授業を見つめ直すなど授業への意識が高まってきている。しかし、課題点も多くさらなる定着を目指す必要がある。

そこで本年度は、「やまなしスタンダード」の視点を明確にし、基礎学力の確実な定着を図った授業づくり・授業改善を進め、児童の確かな学力の定着・向上を目指していきたいと考え本主題を設定した。

4 研究の具体的内容と方法

①児童の実態把握

- ・「全国学力学習状況調査」「県学力把握調査」結果の分析と対策活用
- ・NRT、Q-Uを活用しての児童の実態把握

②授業研究・授業実践

- ・「やまなしスタンダード」学習会
- ・基礎学力の確実な定着を図るための授業実践・実践交流

- ・家庭学習と連動した授業の工夫
- ③主体的な家庭学習の習慣化
 - ・「家庭学習の手引き」の見直し（系統性）
 - ・授業と連動した宿題の取り組み
 - ・家庭学習の定着を図る「自主学習ノート」の取り組み
 - ・保護者への啓発

年間校内研修計画

丸山 英子

テーマ	研究内容	教科	担当	学年	時期	TC要請
確かな学力の定着・向上を指したため指導の工夫あり方	研究主題・仮説・内容・方法・計画等		研究主任		4月	
	研究計画・研究組織・授業研究について		研究主任		4月	
	学習会		研究主任		5月	○
	山梨県学力把握調査結果考察と今後の指導について		教務主任, 研究主任		6月	
	実践交流 各ブロックの研究		ブロック長		7月	
	教育課程環流学習会		教科主任, 研究主任		8月	
	各ブロックの研究		ブロック長			
	全国学力学習状況調査結果考察と今後の指導 各ブロックの研究		研究主任, 教務主任 ブロック長		9月	
	実践交流 各ブロックの研究		研究主任, ブロック長, 授業者		9月	
	授業案提案		研究主任, ブロック長, 授業者		10月	
	授業研究会①	国または算	研究主任, ブロック長, 授業者	5年	10月	○
	各ブロックの研究		ブロック長 授業者		10月	
	授業案提案		研究主任, ブロック長, 授業者		10月	
	授業研究会②	国または算	研究主任, ブロック長, 授業者	2年	11月	○
実践交流 各ブロックの研究のまとめ		ブロック長		11月		
実践交流 個人実践のまとめ		各担任		1月		
研究のまとめと次年度の方向性について		研究主任		2月		